

「野跡小学校の統合に関する説明・意見交換会」の開催結果

教育委員会では、野跡小学校と稲永小学校の統合に向けて検討をすすめています。

令和2年1月24日（金）及び25日（土）に野跡小学校の体育館で野跡小学校の保護者及び野跡学区の方を対象とした「野跡小学校の統合に関する説明・意見交換会」を開催し、様々なご意見やご質問をいただきました。

当日のやりとりやアンケートなどでいただいたご意見やご質問について、名古屋市教育委員会の考え方をまとめました。内容につきましては、趣旨の類似するものをまとめさせていただいたほか、原文を一部要約し、また分割して掲載しておりますのでご了承ください。

◆お問い合わせ先

皆さまからのご意見やご質問は、EメールまたはFAXで受け付けています。

名古屋市教育委員会事務局総務部教育環境計画室

Eメール：a3282@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

FAX：052-972-4176 TEL：052-972-4091

1 統合に関すること

（1）学級規模に関すること

- 以前は児童数をもっと少ない時期もあった。当時に比べたら、子どもの数は多いなと感じた。なぜ今になって統合の話が出てきたのか。
- 1学級の人数は基準があるのか。
- 子どもが増えると教員の負担が増えるのではないか。

（教育委員会の考え方）

- ・名古屋市では小規模校対策に関する実施計画による取り組みを平成22年から進めていますが、野跡小学校は当時は対象となる小規模校ではありませんでした。その後、児童数の減少が進み、近年は、小規模校化が顕著となっており、今年度は6学級となっています。現在の未就学児の人数からも、今後、小規模校を脱する可能性は極めて低い状況です。
一方、稲永小学校は現在12学級ですが、児童数は減少していく見込みとなっており、両校が望ましい学校規模を確保していくためにも、今回の統合という取り組みが必要であると考えています。
- ・名古屋市では、3年生からは40人学級、1～2年生は30人学級を実施しています。参考に、国では2～6年生で40人学級、1年生が35人学級です。

(1 (1) の続き)

- ・ 1 学級当たりの児童数は決まっているので、教員の目が届かなくなるということはありません。学級数が増えて教員が増えることで、一人あたりの校務等の負担が軽減され、児童と向き合う時間が増えるという側面があります。

(2) スケジュールに関すること

- ステップ1 からステップ5 までは何年くらいかかるのか。
- 統合に向け、目標とするスケジュールがあるのではないか。先に統合したなごや小学校の時はどのようなスケジュールだったのか。
- もっと具体的に決まった話をもってきてほしかった。

(教育委員会の考え方)

- ・ 今回の説明・意見交換会は、統合に向けた取り組みの最初の段階（ステップ1）に位置するものです。保護者・地域の皆様へ統合について教育委員会の考え方を広くお知らせするため、開催いたしました。
また、教育委員会では、統合を進めていく際には、中立性や客観性ととともに専門的立場からの見識や判断が必要と考えています。今後、学識経験者等により構成する名古屋市子どもいきいき学校づくり推進審議会で具体的な取り組み内容の調査・審議を行う予定です（ステップ2）。
保護者・地域の皆様には、審議会の答申を踏まえ、統合スケジュールを含む具体的な取り組み内容を改めてお示しし、丁寧な協議（ステップ3）を行った上で統合の決定をしたいと考えています（ステップ4）。
- ・ 教育委員会としては、令和2 年度中の統合決定を目指したいと考えています。
- ・ スケジュールは校舎の整備内容によって異なりますが、参考として、なごや小学校の事例では、検討開始から新しい校舎で授業を受けられるようになるまで6 年ほど（検討、新しい学校づくり、校舎整備でそれぞれ概ね2 年）かかりました。
- ・ 統合に向けた具体的なスケジュールなどにつきまして、プランが決まりましたら改めてご説明させていただきます。

(3) 通学距離・安全対策に関すること

- 通学区域が広がると通学距離が遠くなり、また子ども同士で遊ぶ範囲も広くなるので心配だ。どのように安全対策を考えるのか。
- 通学路が長くなることが一番心配。過去の具体的な取り組みがあれば教えてほしい。徒歩しか認められないのか。
- 通学路の安全、防犯面の確保をお願いします。（子ども110 番の家の確保や、いざとなった時に助けてもらえる方法の講習など）
- 野跡学区はトラックも多いし、朝は急いでいる人もいる。歩道橋を増やしたり、ガードレールを伸ばしたり、統合前に整えてほしい。

(教育委員会の考え方)

- ・教育委員会職員が実際に地域を歩いて、通学路の安全対策は大変重要なことだと認識しています。統合後の新しい通学路につきましては、統合決定後の新しい学校づくりの中で保護者や地域の皆様と一緒に通学路を歩いたり、子どもの通学練習会を開催したりしながら、考えてまいります。
- ・名古屋市では、小学校における通学距離は概ね2 kmを目安と考え、原則徒歩による通学としています。
- ・なごや小学校では、関係機関に働きかけ、狭い歩道へのガードパイプの設置や注意表示の設置、歩行者先行信号の設置などを行いました。
- ・地域・保護者の皆様にもご協力をいただきながら、警察や土木事務所等の関係行政機関と連携し、子どものことを第一に考え、必要な安全確保に取り組んでまいります。

2 統合後の生活などに関すること

(1) 野跡小学校の跡地に関すること

- 跡地の活用はどのように活用するのか。
- 学校が統合しても学区は残るということだが、避難所の取り扱いや学区の野球、ソフトボール、バレーボール活動を継続したいので、できればグラウンドや体育館は残してほしい。

(教育委員会の考え方)

- ・統合により使用しなくなる校地や校舎は、防災拠点等、地域の防災機能に配慮しながら、余剰となる資産の有効活用を全市的な視点で検討します。
- ・これまでの学校跡地は、西区の旧江西小（インターナショナルスクール）、旧那古野小（会議室、シェアオフィス、イベントスペース等）、中村区の旧新明小学校（コミュニティセンター）、旧六反小学校（私立中学校）、旧本陣小学校（中村区役所等複合庁舎（予定））、旧亀島小学校（民間保育園及び公園、地域住民利用施設（予定）、サービス付き高齢者向け住宅（予定）等）となっています。
- ・統合により使用しなくなった校地や校舎は、いずれも指定避難所等となっており、地域の防災機能も確保されています。

(2) 統合前後の子どもたちの生活に関すること

- 統合すると、野跡小学校と稲永小学校とひとまとめで、クラス替えが行われるのか。
- 統合に向け、稲永小学校との交流を今後どのように進めていくのか。例えば、知らない子と一緒に修学旅行に行くことになったりするのか。その前年から交流できるのか。過去の統合でも、他校との交流を行ったのか。

- 今後、稲永小学校との交流を増やしてほしい。
- 子どもたちにアンケートを取るなど、しっかりケアしてほしい。
- 統合によって、日本語教育や除去食（アレルギーや宗教上の理由等）が充実するのか。

（教育委員会の考え方）

- ・各学区の子どもたちが、ひとつのクラスに偏らないような学級編成としてまいります。
 - ・今までの事例でも、新しい学校づくりの際に、様々な児童相互の交流をしています。統合した後のケアだけではなく、事前の交流活動もできる限り行ってまいります。
 - ・これまでには、野外学習やレクリエーション活動などを合同で実施するといった事例があります。野跡小学校と稲永小学校でも、是非、そういった機会を実施してまいりたいと考えています。
 - ・子どもたちが新たな人間関係をスムーズに構築できるよう配慮していくことは大変重要と考えています。統合に向けて、学校の中で子どもにとって一番身近である教職員同士で情報交換を進めるとともに、スクールカウンセラーの活用やなごや子ども応援委員会との連携を図るなど、子どもの実情を踏まえながら準備していきたいと考えています。
 - ・日本語教育につきましては、対象となる児童数に応じた教員の配置や、母語を話せる人の定期的な学校への派遣などを行っています。統合しても、そういった教育は継続してまいりたいと考えています。
 - ・学校給食における除去食の取り扱いにつきましては、本市の「食物アレルギー対応の手引き」にもとづいて、全市統一的に実施しております。
- なお、名古屋市では宗教上の理由での除去食は実施していませんので、これまでどおり、給食を食べることができない場合はお弁当を用意いただきますよう、ご協力をお願いします。

3 その他

（1）説明会に関すること

- 資料を見ると児童数が激減していくようだが、本当にこんなに減ってしまうのか。
- 早く統合を決定して、スケジュールなどを示してほしい。
- もっと具体的に決まった話をもってきてほしかった。全く具体的な話が聞けず、納得できない。みんなスケジュールなど聞けると思っていたので、時間を作った意味がなかった。今日みたいな説明なら、資料をみんなに配って、ご意見があれば受け付けします、で十分だと思う。

- 統合の取り組みは、今回はここだけなのか。他にあるなら、そこはステップいくつなのか。
- 港区内には、野跡小学校よりも小規模な学校はあるのではないか。なぜ野跡小学校で取り組みを進めるのか。
- なごや小アンケート結果（当日資料）で、クラスや人数が増えなかった方が良かったと回答した子どもがいるが、具体的な理由はわかるか。
- 稲永小学校での説明会ではどのような意見が出たのか。稲永小学校を見に行く機会はあるのか。

（教育委員会の考え方）

- ・ お示ししている将来の児童数は、現在の児童数や幼児人口に、人口の移動率等を加味して令和7年度までを推計しています。
- ・ 港区での説明・意見交換会は、野跡小学校と稲永小学校の取り組みが初めての開催になります。市内には他にも小規模校があり、天白区や守山区でも同様の説明・意見交換会を開催していますが、いずれもステップ1に位置するものです。
- ・ 野跡小学校では、近年、小規模校化が顕著となっており、今年度は6学級となっています。
- ・ 他の小規模校においても、大規模な住宅開発等の動向や、学校地域の実情を踏まえて、必要な取り組みをすすめてまいります。
- ・ 先に統合したなごや小学校のアンケートで、クラスが増えない方がよかったと回答した児童は8人おり、他の項目の自由記載欄を見ますと「クラスの意見をまとめにいくい」、「授業で当てられる回数が減った」、「ふざける子がいる」という意見がございました。
- ・ 稲永小学校で開催した説明・意見交換会の内容につきましても、市公式ウェブサイトで公開いたします。
- ・ 稲永小学校の見学につきましては、ご要望があれば、今後、保護者（PTA）同士の交流を含め、検討してまいりたいと考えます。特にご要望があれば、資料でもご紹介していますなごや小学校を見学する機会についても、検討してまいります。

（2）その他（ご意見やご質問）

- 毎日楽しく生活しており、統合がなければこのまま卒業まで通えたと思うが、統合が決まって新しい学校に通う事になるのであれば、それはそれで楽しく生活してくれる、子どもは柔軟に対応出来ると信じている。
- 生まれてから野跡に長く住んでいるので愛着がある。母校がなくなるのはとても悲しいが、アンケート結果を見れば、望ましいことだと思う。

- 子どもが楽しい学校生活だったと思える結果になると良いと思う。
- なごや小学校統合時の問題点やその解決案をもっと詳しく知りたい。
- 今回のような統合に向けての説明会などがこれからもあると思うので、その都度、市のウェブサイトなどに載せてほしい。進捗が知りたい。
- 子どもが少なくとも稲永小学校、野跡小学校のそのままの方がよい。なごや小のアンケートを見ても不安を感じている保護者もいる。統合前に子どもや未就学児にアンケートをとって、それをふまえて統合を進めて欲しい。
- 日本語教育をしっかりとってほしい。外国人への差別が心配。
- この地域が過疎化していく不安がある。この地域の子ども達を増やすための計画（シルバー住宅ではなく定住希望者や子育て世代を対象とした住宅を増やす等）はないのか。
- 統廃合の意味が明確になっていない感じがする。いじめは教育実践で克服できると思う。保護者や子どもの不安になる統廃合は再度考えて欲しい。

（教育委員会の考え方）

- ・今回はステップ1ということで教育委員会の考え方をお示しするために、説明・意見交換会を開催しました。いただいたご意見を参考に、保護者・地域の皆さんへご説明できるよう、進めてまいります。
- ・お便りについて、小学校を通じた保護者への配布や地域で回覧するとともに、統合に向けた様々な情報を市公式ウェブサイトへの掲載等により情報提供してまいります。保護者・地域の皆様のご意見をいただきながら、取り組みをすすめてまいりたいと考えています。
- ・現時点で、この地域に定住促進住宅や子育て世代向けの市営住宅を新たに建設する計画はないと聞いています。
- ・小学校では子どもたちが集団の中で多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することが大切であると考えており、その教育効果を上げるためには、一定の学校規模が必要であると考えています。子どものことを第一に考え、また統合における子どもたちへの心のケアなどに十分配慮しながら、取り組みを進めてまいりたいと考えています。

様々なご意見・ご質問、誠にありがとうございました。